

第5回信濃美術館整備委員会 議事録

○開催日時 平成30年9月27日(木) 13:30～15:30

○場所 長野県庁3階 特別会議室

○出席者

委員 竹内委員長、荻原委員、北村委員、小坂委員、小林委員、谷委員、橋本委員、樋口委員、福島委員、松本委員、山浦委員、渡辺委員
(欠席:近藤委員、佐野委員、野原委員、村松委員、本江委員)

長野県 角田県民文化部長、中坪県民文化参事兼文化政策課長、日向信濃美術館整備室長、荒城施設課長、高山信濃美術館整備室課長補佐

設計者 (株)プランツアソシエイツ 代表取締役 宮崎浩氏

1 開会

(高山課長補佐)

ただいまから、第5回信濃美術館整備委員会を開催します。私は本日の進行を務めます、信濃美術館整備室課長補佐の高山です。どうぞよろしくお願ひします。

はじめに、角田県民文化部長よりごあいさつ申し上げます。

2 あいさつ

(角田県民文化部長)

県民文化部長の角田と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

第5回目の信濃美術館整備委員会を開催しましたところ、委員の皆様方にはお忙しい中、ご出席をいただきまして大変ありがとうございます。

3月に開催した第4回目の委員会以降、設計を担っていただいております(株)プランツアソシエイツの宮崎さんを中心に、松本館長も加わりまして、さらに県民の皆様のご意見を聴きながら本日を迎えたという次第です。

その間も精力的にご検討をいただきまして、様々な観点のご意見を実施設計の中に反映していただいたとお聞きしております。

本日は、実施設計の概要についてご説明させていただき、今後に向けたご意見を賜りながら次の段階へと進めさせていただきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

3 委員の紹介

(高山課長補佐)

それでは次に、3 委員の紹介に移ります。

前回の委員会から今回の開催までの間に交代があった委員がいらっしゃいますので、一言添えていただきまして自己紹介をお願いいたします。

善光寺寺務総長の小林委員、お願いします。

(小林委員)

今年の4月から新しく善光寺寺務総長を拝命しました本覚院の小林と申します。どうぞよろしく願い申し上げます。

思い起こせば、現在の信濃美術館で学芸員の資格を取らせていただきました。私としては、非常に思い入れのある美術館でございますが、次回の御開帳までに新しく生まれ変わる、それも善光寺東公園等を含めて一体化した、お参りに来られる方、また、美術館に来られる方が心休まる場所にされるというお話を伺っており、私自身も非常に楽しみしております。その検討に参画させていただくということで、身の引き締まる思いですが、善光寺に対してもご意見、ご希望などございましたら頂戴できればと思います。

新参者でございますが、一所懸命務めさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

(高山課長補佐)

小林委員、ありがとうございます。新たに委員になられた方は、小林委員の他、長野県美術教育研究会の村松会長がいらっしゃいますが、本日は都合により欠席されております。

欠席委員は、ただいま御紹介した村松委員のほか、近藤委員、佐野委員、野原委員、本江委員が都合により欠席されております。

会議は、設置要綱により委員長に議長をお務めいただくことになっております。

以降の進行を竹内委員長にお願いしたいと存じます。

4 議 題

(1) 信濃美術館の実施設計

(竹内委員長)

分かりました。本日の会議の終了時間は概ね3時半を目途としたいと思いますので、皆様ご協力をお願いします。

それでは早速議題に入ります。はじめに、(1)信濃美術館の実施設計について、前回に引き続き、設計者の宮崎浩さんにお越しいただいておりますので、宮崎さんから設計の全体像についてご説明していただきますが、その前に10分程度、皆様方に模型をご覧いただきたいと思います。それでは、席をお立ちになり自由にご覧ください。

<<模型見学>>

それでは皆様、席にお戻りください。それでは宮崎さん、ご説明をお願いします。

(株)プランツアソシエイツ 宮崎氏)

資料1・2、スライド、模型により説明

(竹内委員長)

ありがとうございました。それでは、各委員からご質問やご意見を伺いたいと思います。どのようなことでも結構です。いかがでしょうか。

(谷委員)

「屋上広場」や「交流スペース」は、スペースがかなりふんだんに取られている印象があります。このスペースをワークショップや映像の投影などに使われるとすることで、コンセプトは素晴らしいと思いますが、実際に運営する美術館が大変になる気がします。松本館長は、どのようなイメージを持っておられるのでしょうか。

(松本委員)

建物の西側部分を「屋根のある公園」と呼んでいます。その建物に入った正面に横長の壁があります。そこに映像を投影する設備面の準備をしています。この部分は映像を投影している時は、「動く壁画」のようなものになります。「動く壁画」をずっと鑑賞していただくこともできれば、フリーゾーンですので、映像を観ないで通り過ぎることもできる。空間のバックグラウンドのイメージです。映像作品の制作を具体的にどの作家に頼むかまでは至っていません。なぜこの部分を「屋根のある公園」という言い方をしたかと申しますと、城山公園で遊んでいるお子さんなどが、雨が降ってきたら自由に建物に入って雨宿りもできるし、一息つける場所にもなる。実際の使い方としては、「動く壁画」の部分以外に、可動壁を持った小さなギャラリーで公開制作を行ったり、それ以外の大きなスペースでは実技を伴うワークショップや多目的ルームを使うほどではない、ステージと観客席が分かれていない形での小さな対談や鼎談、セミナーなどに使う予定です。美術館員からすると、そのエリアでどのようなプログラムを行うかの心配が先行していますが、最近建てられた建物をみますと、主にエントランスホールですが、椅子があるだけの吹き抜け空間という、一息つくだけの広々とした快適な空間を備えた建物がとても多いです。私どもの美術館は、いろいろなシンポジウムやワークショップなどのプログラムを用意するつもりですが、むしろそこでは途切れなく催し物をやらないほうがよいといった可能性すら残っています。あくまでも美術館としては、美術館教育、講演会や対談、公開制作などいろいろなプログラムを用意するつもりでいます。

それからもう一つの大きなフリーゾーンである「屋上広場」があります。信濃美術館整備委員会や美術館運営専門委員会で、この広い空間をどう使うのかとご心配

をいただきました。「屋上広場」を囲む先端と両サイドの部分は植栽的な使い方を考えています。また、「屋上広場」の一部には屋根が掛かっている日差しをよけて休めます。それからベンチも置く予定です。この場所は、野外彫刻などいろいろな催し物にも使えますが、「屋上広場」を善光寺側の突端まで進むと、山などの自然の景観と善光寺の歴史的景観のどちらをも眺望できる眺めこそが、一番のごちそうではないかと考えています。したがって、オープンエアーの野外彫刻展や店を出すとか、コンサートなど、いろいろな使い道はありますが、実はそこで何も催し物がない時が一番よいとなったときが成功ではないかと思っています。

(竹内委員長)

ありがとうございました。谷委員いかがですか。

(谷委員)

景観を堪能できるスペースが可能であれば、「ランドスケープ・ミュージアム」を謳っていますので、それが一番だと思います。

「待合プラザ」の向きはどうなっているのでしょうか。

(松本委員)

善光寺から来て、通りを渡って城山公園の中にあり、バス停やタクシー乗り場になればと考えています。したがって、「待合プラザ」は西側、善光寺側を向いています。

(谷委員)

「待合プラザ」から夕焼けなどが見えたりすると景観的にもよいと思います。

(松本委員)

善光寺の通りに面したところが土塁になっていますので、見通しが広々と開ける場所ではないです。

(株)プランツアソシエイツ 宮崎氏)

少し付け加えますと、待合プラザは、単なるバス停ではなく、バスを待つ間にくつろぐことができるような場所として整備する予定です。このバス停は女子高生がよく使っています。バスを待っている間に、友達と話せるとか、そういう場所になればよいと思っています。また、女性にとって屋外のトイレは怖い場所になりがちですので、この「待合プラザ」にあれば安心だという、小さなかわいらしい建物にしたいと思っています。デザインの的にも、善光寺の空間と新美術館とをつなぐ四阿的なイメージです。「待合プラザ」は景観上も重要な施設だと考えています。

(松本委員)

善光寺の東参道から歩いてくると、新館の突端に当たります。「待合プラザ」から公園内を東に向かっていている道は、東山魁夷館と新館の正面に伸びています。アクセス（軸線）が2つあるような感じです。

(株)プランツアソシエイツ 宮崎氏

補足になりますが、雪の心配については、以前この委員会でもいただいております。今回は県の工事範囲だけではなく、公園内の主動線に融雪装置を入れていきます。建物の主動線は北側になっていますので、地中熱を利用した融雪装置を使うことで、エネルギーをあまり使わずに、雪や氷を溶かす計画を考えています。

(竹内委員長)

融雪装置は電気ですか。

(株)プランツアソシエイツ 宮崎氏

温水です。杭を打って地中の熱を取り、それを機械室で循環させて使います。昼間は建物のエネルギーに使いますが、夜間はエネルギーを使うものが少ないので、融雪装置のほうに回せると思っています。基本的には24時間、365日熱を取っていますので、そのように使おうと思っています。

(竹内委員長)

簡単に言うと、お湯が入ったパイプが埋め込まれるということでしょうか。

(株)プランツアソシエイツ 宮崎氏

そうです。電気よりもランニングコストも安く効率的なので、温水を考えています。

(竹内委員長)

水漏れなどの心配は大丈夫でしょうか。

(株)プランツアソシエイツ 宮崎氏

改めて現場に入ったら工事関係者を含めて詳細に検討しますが、大丈夫です。

(竹内委員長)

このような設備は美術館でも段々増えてくると思いますが、そういう点でコストも助かればよいですね。

(樋口委員)

「屋上広場」に野外彫刻という話がありましたが、物によっては大変重いものも

あります。「屋上広場」の空間は、どの程度の耐荷重なのでしょうか。どの程度のことを想定されているのでしょうか。

(株)プランツアソシエイツ 宮崎氏

石等重量のある常設美術品は想定していませんが、イベント等で人が集まることは想定し、屋上広場は群衆荷重を想定して設計しています。

(松本委員)

確かに、石の彫刻は数トンという重さになりますが、この場所に大きな彫刻を置くことは美術館としては考えていませんし、記念碑のようなものを永久設置することも考えていません。先ほど、野外彫刻の例を出しましたが、設置するとしても、大きくはない、短期間のものです。

(竹内委員長)

荷重が1平方メートルあたり1トンとか、その半分の500キログラムなど、これによってかなり設備面が違ってきます。特に現代彫刻などを並べる場合は、いつも荷重の問題が出ますが、「屋上広場」に限って言えば、1平方メートルあたりどの位の重荷重のイメージでしょうか。

(株)プランツアソシエイツ 宮崎氏

まず、美術館内の展示室は、基本的に床荷重を1トンで考えていますが、「屋上広場」は人が集まる場所として、1平方メートルあたり500キログラム位の荷重(群衆荷重)を見込んでいます。松本委員が固定のものは置かないとおっしゃいましたが、どうしてもこの場所に置きたいとなった時には、場所を限定すれば重いものも部分的に乗せることは可能です。

(樋口委員)

おそらく、場所を限定してというのは、柱の位置だと思います。

(株)プランツアソシエイツ 宮崎氏

下階に柱と壁のある部分ですね。

(樋口委員)

設営の時には、柱の位置などを意識することなく搬出入すると思います。

(松本委員)

その場合には、薄い鉄板を敷きつめて搬出入することになると思います。

(竹内委員長)

まずは、人がこの場所に来る訳ですから、その安全を第一に考えて、あまり無理をしないでよいのではないのでしょうか。耐荷重を1トンにするには、かなり工事費が嵩みますから、そこは十分に考えたほうがよいですね。

今は、建物側が用意した用途ではない、曖昧な、あるいはミックスすることが流行っています。メトロポリタン美術館には「ルーフガーデン」という名前を付けて、屋上を開放しています。そこに彫刻を置く場合は、大きなクレーンで釣り上げて設置しています。これが非常に人気があります。場合によっては、初めから予定して、「ルーフガーデン」で何かするのもよいですね。それから「ルーフガーデン」という名前もよいですよ。初めから屋上も庭と設定するとよい方向が出るのではないかと思います。

(樋口委員)

それは大賛成でして、基本的には何をやるかを最初に考えて、それに合ったハードを用意するというのが本来の姿だと思います。今のような、ある種の見せ方、事業の展開の仕方、そういうことをかなり検討していただいて、あともうちょっと耐荷重があればこういうことができたという話があると本当に残念なことです。ぜひ建物と合わせて、ソフトの検討をしていただけるとよいと思います。

(竹内委員長)

同じ話の裏返しになりますが、逆にこれはやらないということをセットにすればよいですね。

(樋口委員)

当然、コスト的な問題もありますが、「靴に足を合わせろ」みたいな話になりがちです。それは非常に残念なことです。最初からこういうことは最低限やろうという事業展開を考えていただいたらよいのかなと思います。

(松本委員)

先ほども言いましたように、実は学芸員の側からすると、空いたスペースを放っておく訳にはいきませんし、いろいろなプログラムは今後考えていきます。ただ、一つだけ重ねて言いますと、この建物の設計、あるいは事業の一つのキー・コンセプトである「ランドスケープ・ミュージアム」を、竹内先生に委員長を務めていただいた「信濃美術館整備検討委員会」につくっていただきました。これまでは東側の通りから善光寺を眺めようにも、美術館の建物があって見られなかったのです。その眺めがさぞやすばらしいものであるということが、設計が進み、いろいろな議論をしていくうちに、だんだん具体的に実感できるようになりました。いろいろな催し物は考えていきますが、実は「ランドスケープ・ミュージアム」ばかりは他の美術館に例がない特色だと考えています。

(竹内委員長)

今、善光寺の話が出ましたが、小林委員、いかがでしょうか。

(小林委員)

確認ですが、駐車場はつくらないということでしょうか。

(株)プランツアソシエイツ 宮崎氏)

これまでも何回か駐車場の話題になりましたが、結論として、この敷地の中には、来館車用としては現在ある東山魁夷館の駐車場だけに限定しました。あとは、搬出入用とお体が不自由な方用の駐車場を2階、3階に2台ずつ用意しています。

(小林委員)

もう一点ですが、次の御開帳までに完成予定ということで、善光寺としても現在の美術館でも善光寺展として、各什物を美術館を借りして皆さんに供する、もしくは興福寺展などもされていたりして、そういった仏像ですとか、善光寺の物などを展示していただけると我々としてもありがたいです。また、観る方も、今、阿修羅展などもそうですが、こういったものに非常に興味がございます。そういった場合に、消防法でどうなのか分かりませんが、ろうそくをつけたり、お香を焚いたりすることができないところが多いのですが、展覧会が始まる前にお勤めをしたりすることが許されるような想定なのか、それとも一切駄目とするのかその辺をお聞きしたいと思います。

(松本委員)

〇〇寺展ということで、毎朝お勤めをするということで展覧会を開いているケースは実際にあります。朝のお勤めにろうそくが必要なのか、松明がいるのか、その辺について私は疎いものですから、今、何とも言えませんが、お勤めが必要なものは必要ということで、何とかしなければということではないでしょうか。

(小林委員)

私が想定していたのは、展覧会の始まりと終わり、それもお勤めの間だけ、ろうそくをつけてお参りをする、終われば消してしまうというものです。

(松本委員)

例えば、作品の設置で、作品によってはバーナーで溶接までします。今伺ったお話を、展覧会の始まりと終わりということであれば、問題ないように聞こえました。

(株)プランツアソシエイツ 宮崎氏)

基本的に美術館は火気厳禁です。確実にどなたかがいて、安全が担保される時間

帯であればできるとは思いますが、この場でできると簡単には言えません。逆にそのようなことができるように、関係諸官庁などと前向きな打合せができるように頑張っていきます。

(小林委員)

よろしくをお願いします。

(竹内委員長)

私も興福寺展のときに、いろいろ苦勞しましたが、火は短い時間にするなどして解決できました。それから、お香の場合、電気で行うお香もあつたりします。問題は匂いが残ることですが、仏教美術系ではお香の匂いが残ってもそんなに叱られたことはないので、うまく時間とすみ分けができれば、これは解決できると思います。

(小坂委員)

模型などを拝見すると、屋上はとてもすっきりしていますが、実際は柵とか手すりは全くなしという訳にはいかないと思います。実際には、どのようになるのでしょうか。

(㈱プランツアソシエイツ 宮崎氏)

善光寺に近い部分はガラスの手すりを考えていまして、上部に人造大理石などの板を置いています。コーヒーカップなどが置ける板が一枚浮いているようなデザインです。全ての箇所がガラスという訳ではなくて、金属製の手すりもあります。場所場所に合った安全対策、手すりを設けながら設計しています。

(小坂委員)

善光寺に一番近い前の部分はどのような手すりになるのでしょうか。

(㈱プランツアソシエイツ 宮崎氏)

ガラスの手すりを考えていますので、足元は透けていて、視界を妨げないように考えています。

(竹内委員長)

あるタイミングで掃除も必要になりますね。

(㈱プランツアソシエイツ 宮崎氏)

手摺に限らず、建物のメンテナンスは必要になりますが、この建物は、美術館という機能面も考慮して、全体的にガラスの面積はかなり低くなっています。

(山浦委員)

運営は県費を投入することが前提ですよ。これ独立採算はできませんよ。そのあたりの収支はどうなるのかは重要な問題だと思います。すごく赤字であるとどんどん縮小ということに必ずなります。

「ミュージアム・ショップ」は、展覧会に行くと大体自動的に行くようになっていきます。来館者に必ず「ミュージアム・ショップ」に行ってもらおうことを考えると、この位置でよいのか気になります。

(松本委員)

「ミュージアム・ショップ」の位置は、「エントランスホール」が一等地だとすると一等地ではないです。しかし、展覧会を観た方が善光寺のほうに向かって帰られるときに必ず通る場所です。「エントランスホール」の次によい場所だと考えています。

(竹内委員長)

これはこれからの運営の問題に絡んできますが、メインのショップの他に、展覧会の会場のそばにミニ・ショップも必要だというのが世界的な傾向です。そこで図録と絵葉書くらいは販売できるとよいです。その他のグッズはメインのショップでどうぞということができるとよいです。これは新しい課題でしょうね。それによっていろいろな設備面の用意もしなくてはなりませんので。設計の段階ではメインのショップしか考えられていませんよね。

(榊プランツアソシエイツ 宮崎氏)

そうですね。ただ、1階、2階ともかなり大きめのインフォメーションスペースがありますので、そこで図録などは十分販売できると思っています。

(竹内委員長)

これは運営の問題ですが、ミュージアム・ショップや運営費をどのように設定するのかを含めて、今後の検討課題としたいと思います。

(北村委員)

入場料を払わない部分、いわゆるオープン・スペースと言われるところでトイレを使う場合、トイレはどこにいくつくらいあるのでしょうか。城山公園には「待合プラザ」にトイレを設けますが、数は限られると思います。特に「屋上広場」に人がたくさん集まった場合はどうするのでしょうか。

(榊プランツアソシエイツ 宮崎氏)

1階には女子トイレが4つ、男子が大2つ小4つ、お体が不自由な方用のトイレ、それとは別に子ども連れで利用できるトイレがあります。また、交流ゾーンには1

階と地下に同様のトイレがあります。トイレは地下、1階、2階の各所に用意しており、2階にはカフェのほうにも1つ用意してあります。3階は建物に入ったところに用意してありますが、「屋上広場」用のトイレは特に用意してありません。

(北村委員)

3階の建物内のトイレはどのくらいあるのでしょうか。

(株)プランツアソシエイツ 宮崎氏

最小限のもので考えています。

(北村委員)

そうしますと、「屋上広場」に来た人たちがトイレに行きたくなったら、どこに行けばよいのでしょうか。

(株)プランツアソシエイツ 宮崎氏

通常は、3階の屋内トイレか、もしくは2階のトイレを使うこともできますが、イベントの際などは外部トイレを利用するのがよいと思います。

(北村委員)

どこまで用意するかですね。集中する時は意外と集中しますよね。

(株)プランツアソシエイツ 宮崎氏

普通の美術館は、大きな企画展がある場合は、仮設トイレを外に用意します。来館者数が最大となる時にあわせて空調やトイレを用意することは基本的には不可能だからです。それでは他のときに全く使い道がなくなってしまいます。もう少し多く確保できればとも思いますが、全体面積の制限の中で、現状はこの形で考えています。

(北村委員)

「屋上広場」に大勢の人が集まってくるようになると、もう少しトイレは必要ではないかと思います。

城山公園のトイレは「待合プラザ」しかないですね。

(荒城施設課長)

東側道路の彫刻広場のところに公衆トイレがあります。

(株)プランツアソシエイツ 宮崎氏

美術館の中にトイレをつくるより、外のほうを充実させたほうがよいと思います。

(樋口委員)

それも先ほど申し上げたとおり、そこで何をやるかだと思います。変な話ですが、ミュージアム・ビアガーデンのようなことをやるとなれば、絶対足りないですよ。どういことをやるのかをある程度考えて、トイレの数なども考えないといけないのではないのでしょうか。

先ほど、山浦委員がおっしゃった全体の収支ですよ。入場料やミュージアム・ショップは稼ぐ部分になると思いますが、それでは全然足りないでしょうね。ミュージアム・ビアガーデンは別として、その他に収入を得る方法があるとするれば、そこで何をやるのかをよく考えてやらないといけないと思います。

(竹内委員長)

大規模展覧会で大勢の人が来ることが予定されている場合は、外に臨時トイレをつくって対応することはよくあります。これは運営も含めて検討しないといけませんね。全部美術館の建物内で引き受けるのはどうかと思いますから。

(荻原委員)

新しくできる美術館が何を優先していくかですが、ここまで「ランドスケープ・ミュージアム」のコンセプトのもとに設計を進めてきて、ルーフから見える景色、景観が一番すばらしいところを美術館の個性にしていって、あるいは、善光寺や城山公園と一体化されていることを大きな特徴としていくなれば、美術館単体ではなく、城山公園や善光寺とどのように連携していくのか、その運営の部分はおそらく美術館単体でできることではないだろうと思います。一方で、正しくここで何をやるのかというときに、空いているスペースがあれば、そこで事業を展開することは美術館としてやるべきでしょうし、美術館がやるべきところと、そうではない余白の部分で周辺と連携してやる部分も今後考えられていく全体の中で「ランドスケープ・ミュージアム」というコンセプトなのだろうと思っております。

冒頭のご説明で、「ユニバーサルデザイン」の考え方が示された中で、これも運営に関わるころなのですが、ハードだけではなく「人による誘導」という言葉がありました。現在は実施設計の段階なので、何がどこまでできるのかを最大盛り込むところはありますが、全ての要件は満たせないと思います。今後、そこをどうやって運営面でカバーして、充実した美術館にしていくかということが重要なのだと思います。先ほどの耐荷重の話や火を使うなど際にいろいろな規制がある中で、かつこれから美術館サイドでは想定していなかったような使い方のリクエストや、現代美術に関わっていくのであれば、アーティスト側からの思いもよらないようなプログラム展開の仕方がおそらく出てくる。想定を超えてくることがある中で、ここまでは頑張っって用意してあります、でも、ここは無理かもしれないという規制の狭間をどのように超えていくかというのは、これも単体の美術館としてだけではなく、全体の中で調整されていくことも出てくると思います。現段階ではなるべくできることの範囲を広げた上で、美術館だけではできないところを運営面で折り合いをど

う付けていくかを考えていくことが重要だと思いました。

(株)プランツアソシエイツ 宮崎氏)

ありがとうございました。「ユニバーサルデザイン」に関しては、私も何回か経験しています。例えば、目が不自由な方は点字を使われます。点字は生れてからずっと目が不自由な方は読めますが、事故などで途中から目が不自由になった方や高齢により目が不自由になった方は点字が読めない場合があります。そういった方々にとって、「点字があるでしょ」と言われることが結構あるとのこと。点字図書館の方からも、「安易に点字は入れないでくれ」と言われたことがあります。大事なところに点字があるのはよいですが、「点字があるからよいでしょ」というのは絶対やめてくれということでした。ですから、あくまでも、人が案内するという前提で計画することが大事だと思います。

(松本委員)

点字の備えをいろいろなところにすれば、それで用は済んだということでは全くないということですね。

(株)プランツアソシエイツ 宮崎氏)

そういうことです。音声誘導も一緒です。全ての箇所に音声で誘導するようにすると美術館で静かな場所がつかれないなど、いろいろな問題もありますので、きっと、必要なもの、と必要ではないものを引き続き検討しながら探し出していくのだと思っています。

また、最近、設計して思うのですが、特に公共施設を設計すると、この部屋は何の部屋だと名前を付けなければいけないということがあります。場所をどう使うかということは、クライアントと設計者が想定していないことを探し出すということでもあるので、その仕掛けをどこまで用意するのかは最後の最後まで、きっと工事中でも気が付いたところは直していく知恵が必要だと思っています。

(山浦委員)

名前は「信濃美術館」のままなのですか。

(竹内委員長)

名前はそのままですよね。

(株)プランツアソシエイツ 宮崎氏)

名前については知事も、大事な問題だとお話になっていますから、100%確定ではないのではないかと思います。

(竹内委員長)

おそらく、いろいろ検討されると思います。

(橋本委員)

基本設計からスタートして、実施設計になって、松本館長はじめ、美術館員がいろいろな注文をしながらここまできたのだと思っています。その意味では、やっとここまできたという感想を持っています。

宮崎さんのお話を聞いていて、私が最初から思っている点が5つあります。

1つは駐車場です。人がたくさん来ることは確実です。そういった時にどのように流れが滞りなくスムーズにできるか。これは大きな問題ですので、今日、そこが聞けなかったのが残念です。

2つ目は、交流スペースです。今、言われていることは最初から問題になっていたところ。そこがどのようになったのかなと思ったら、まだまだ今日のお話では分かりにくいところがあります。

3つ目は収蔵庫への車の流れから搬入搬出です。これは全く今日話に出ていないですね。その辺も聞かせていただきたい。

4つ目は、屋上広場です。100メートルの長さが出たころから、ずっと屋上の問題は出ていました。今日に至っても、樋口委員がおっしゃったように、まだ目的が定まっていない。これはとても大きなところだと思っています。人は一回、そこにぶらっと来て、善光寺を眺めてまた戻っていく。リピーターがいれば、そのうち屋上には行かなくなるでしょう。そうすると何のためにつくったのかが問われてくると思います。先ほど、松本館長が、いろいろなことを工夫するとおっしゃられた。それ以外に何もなくてもよいという捉え方もありますよね。この辺は学芸員の負担もかかってくる話です。何かやるということは、人と費用がかかります。そこも考えていかないとややこしい問題になると思って聞いていました。すっきり何も無い憩いの場ぐらいにすればよいですが、人間の心理として、善光寺のほうまで歩くには、何かポイントのある部分がほしいと思います。1メートルでも高いと人間は上りたくなります。そういったあそこまで行きたいと思える魅力的なものが屋上にほしいなと感じています。よく東西南北の表示がありすよね。こちらが長野駅のほうだとかですね。そういったものがあるだけでも人間はそこまで行きます。ちょっとしたお金のかからないものでよいので、知恵を働かせないと単なる空間では一度行ったら二度とは来ない、そういう場所になると思います。

5つ目は、東山魁夷館との関係です。これも以前から申し上げておりました。今日は、廊下の部分に情報を入れていかれるというお話をお聞きしました。ここも果たしてそれだけでよいのか。廊下の幅が2.2メートルになったことを前回お聞きしました。その幅の中で、ここの距離感も含めて、まだまだ私にとっては分かりにくいところ。す。

その上で、人が入って行く入口は5つあります。北側の駐車場のほうから、東側の屋上のほうから、南側から、西側のバス停と善光寺からです。一番問題なのは、

初めて来る人が多いのですが、どこへ行ったらよいのかということ。一番人間が困るのは、前の人歩いていくとそこへ行きます。ところが、東山魁夷館と信濃美術館というすごくすばらしいものができたけれども、入口があり過ぎです。来た人が入っていく道筋をしっかりとつくっていかないと右往左往すると思います。

もう一つ、トイレは本当に大きな問題だと思います。それと関係して、「ランドスケープ・ミュージアム」はできあがったときに、必ずマスコミから何がランドスケープだったのか問われますよね。ここへの回答を明確にしておかないと、大きな意味で何のための美術館だということになってしまう、そんなことを感じました。

(竹内委員長)

今、いくつか重要なご指摘がりましたが、善光寺を含めた全体のモデル動線までいっていませんので、サイン計画なども出てきますので、これも大きな検討課題ですね。大事なところですから、早めに方向を出したいですね。

(渡辺委員)

施設の概要を見ると、今の信濃美術館と比べて、人員が相当必要だと感じました。アイデアは非常によいのですが、やはり実現するためには人件費が必要です。

(竹内委員長)

当然、人件費を含めた人の体制ですが、臨時に対応する場合と、ずっと定数として採用する場合とあると思います。これも大事なことですね。

(渡辺委員)

今まで信濃美術館の館長をされていた橋本委員に伺いたいのですが、今日、施設の概要などを聞かせていただきましたが、今まで運営の中でご苦労されていて、この点が改良されていてすばらしいとか、評価できる点などを教えていただければと思います。

(橋本委員)

なかなか難しいですね。

(竹内委員長)

比較しようもないかもしれませんね。

(橋本委員)

比較がまずできないということですね。当然ながらよい点はたくさんあります。魅力的なよい建物になってほしいという願望があって、それに近づいていると思います。

それよりも、講堂の組み木の活用の話がありましたが、私の立場からすると、組

み木以外にもたくさんあります。例えば、南から入ったところに積み上げた石がたくさんあります。

(株)プランツアソシエイツ 宮崎氏

全てをご説明していませんでしたが、登り庭のところに今のお話にあった自然石を再利用していたり、益子焼の焼き物を池の横に置いたり、記憶に残るものをいくつか組み込むことを計画しています。

善光寺の土塁や長野市の噴水などの記憶を残すような歴史の表示なども施設の中に配置しています。

(橋本委員)

渡辺委員のご質問に答えられませんが、何を残してもらいたいのか、これは学芸員をはじめ考えていると思いますが、できるだけ前の面影になるものを上手に活かしてほしい、それが願いです。

(谷委員)

企画展示室の壁ですが、可動式の自立壁というご説明でした。これはつまり、天井からの吊り下げ型でないということですね。幅が60センチメートルということです。床でアンカー固定するというのですが、どの程度スペースの増減や作品点数に応じた可動性があるのでしょうか。完全に真っ二つに仕切るだけではなくて、おそらくいくつかアンカーが入っていますよね。

(株)プランツアソシエイツ 宮崎氏

これをどう組んでいくかというのはこれからです。特に企画展示室は、一コマが大きいというお話があるので、展示ケースの中も含めて、いくつかに分割したいというお話をこれから詰めていくこととなります。

(竹内委員長)

可動式の自立壁というのは、どのような仕掛けになるのですか。

(株)プランツアソシエイツ 宮崎氏

吊り下げ型ですと、パネル厚が150ミリから100ミリくらいと薄いですが、これは、ある幅をもって置いて、壁として自立している。それを展示壁として使うということです。

(竹内委員長)

動かそうと思えば、動かせるのですね。

(株)プランツアソシエイツ 宮崎氏)

動かせませす。

(谷委員)

私がおりました宇都宮美術館もそうでしたが、22、3年前にそういう形にしました。壁として自立型は強くて、重い作品も掛けられますので便利なところがあります。ただ、移動は天井吊り下げ型のように、学芸員がまとめて片付けることはできないです。自立壁はややもすると重いので壊れることもあります。学芸員では動かせませんから、外部発注になりますので費用がかかってきます。そういう問題はありますが、自立壁のほうが展示空間全体の安定感がありますから、方向性はこれでよいと思います。

(福島委員)

技術的なことはよく分かりませんが、美術館に入ってすばらしいと思えるようなものをつくっていただきたいと思います。

また、特に女性は美術館に関するお土産をすごく楽しみにしていますので、「ミュージアム・ショップ」をぜひ充実していただきたいと思います。

(山浦委員)

今の時代は、何か企画がないと美術館に行かないという感じですよ。何もなくても人が来るようにしたいと思うのですが難しいのでしょうか。企画をやり続けることはなかなか難しいと思います。

(谷委員)

欧米の美術館は、コレクションだけで十分お客さんが入ります。企画展も行われますがコレクション展が主です。ルーブル美術館でもオルセー美術館でもそうです。日本はむしろ企画展でしかお客さんを呼べないという歴史を歩んできてしまったこと自体が問題なのです。ですから、コレクションの充実にもっとお金を投じて、すばらしいコレクションをつくっていただければよいのですが、財政的には厳しい注文にはなりません。

(竹内委員長)

建物で人を呼べるということもあると思います。

(谷委員)

基本的なことと言えば、本末転倒なのです。

(竹内委員長)

それでは、この議題はひとまずここで終わりにします。また何かお気づきになり

ましたら、いろいろなところでご意見を頂戴したいと思います。

(2) 平成30年度9月補正予算

(竹内委員長)

次に、(2)平成30年9月補正予算について、事務局から説明をお願いします。

(日向信濃美術館整備室長)

資料3により説明

(竹内委員長)

ありがとうございました。ただいまの事務局からの説明について、ご意見、ご質問などありましたらお願いします。

他に御意見等がないようですので、全体を通じて何かございますでしょうか。

(3) その他

(竹内委員長)

それでは次に、(3)その他について、何かありますでしょうか。

(高山課長補佐)

今回の委員会の日程等については、委員の皆様に変更のご連絡させていただきました。

(竹内委員長)

以上で本日本日予定された議題は終わりました。円滑な議事進行にご協力いただきまして誠にありがとうございました。それでは事務局にお返しします。

(高山課長補佐)

竹内委員長、ありがとうございました。

本日の議事内容は、後日、各委員の皆様方に発言内容を確認していただいた上で、県のホームページに掲載させていただきますので、よろしくをお願いします。

5 閉 会

(高山課長補佐)

以上をもちまして、第5回信濃美術館整備委員会を閉会します。

皆様、ありがとうございました。

以上